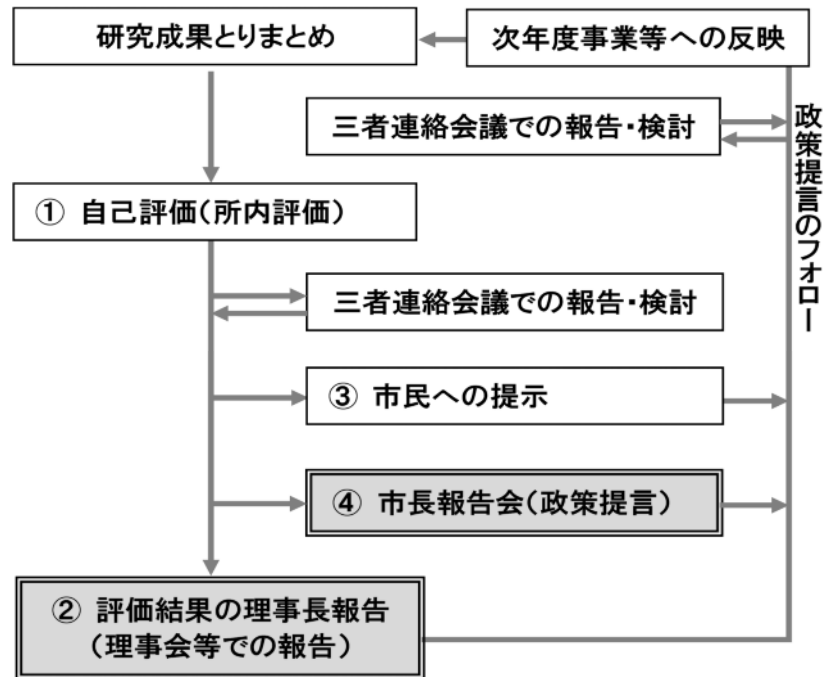


令和2年度研究成果の評価について

1 中期ビジョンにおける評価の仕組み

(1) 評価のプロセス



(2) 評価指標

研究所の役割	評価指標
広義の都市交通の研究	1) 外部学会誌・論文集等で発表した査読付き論文数
	2) 上記を除くその他学会・協会等で発表した論文数
	3) 論文賞等の受賞
	4) 競争的研究資金の獲得件数
交通まちづくりの推進	5) 市への政策提案件数
	6) 豊田市はじめ行政等からの受託研究の受注件数(金額)
	7) 地域に関わる研究テーマの件数
	8) 地域活動への貢献(委員・講師等)
世界への情報発信と貢献	9) 国際会議での論文発表件数
	10) 国際セミナー・シンポジウムの開催
	11) 国際的な調査プロジェクトの実施
	12) 機関紙・年報の定期発行
	13) シンポジウム・報告発表会・講習会・セミナー等の開催数, イベント出展数
	14) 各種行事記録集の発行:種類
	15) マスコミの露出度:報道・出演回数

2 評価指標を用いた試行評価の結果

(1) 定量的な指標による結果

役割	評価指標	H28-30年度 平均	R1年度	R2年度
① 広義の都市 交通の研究	1) 外部学会誌・論文集等で発表した査読付き論文数	17.3	23	12↓
	2) 上記を除くその他学会・協会等で発表した論文数	20.7	19	22↑
	3) 論文賞等の受賞	0.7	1	3↑
	4) 競争的研究資金の獲得件数〔科研費〕	1.3	2	4↑
	競争的研究資金の獲得件数〔その他〕	3	4	1↓
② 交通まちづ くりの推進	5) 市（地域）への政策提案件数	9	11	14↑
	6) 受託研究の受注件数（件）	18	19	19⇒
	7) 地域に関わる研究テーマの件数	21.7	26	27↑
	8) 地域活動への貢献〔委員・大学等講師〕 〔講演〕	39.3 26.7	36 34	36⇒ 10↓
③ 世界への情 報発信と貢献	9) 国際会議での論文発表件数	14	16	4↓
	10) 国際セミナー・シンポジウムの開催	0.3	0	0⇒
	11) 国際的な調査プロジェクトの実施	0.3	1	1⇒
	12) 機関紙・年報の定期発行	5	5	5⇒
	13) シンポジウム・報告発表会・講習会・セミナー 等の開催回数，イベント出展	14	16	10↓
	14) 各種行事記録集の発行：種類	1.7	3	2⇔
	15) マスコミの露出度：報道・出演回数	9	5	2↓

赤：増大、緑：横ばい、水色：前年比で低下したが2年前の平均より増大か横ばい、灰：減少

(2) 総括

- 総括1：令和2年度では、予定通り実施した市長への政策提言会を受けて、出捐者でもあるトヨタ自動車との協力関係もより一層強化し、当研究所の当面の重点課題でもある「交通の安全・安心」に関して豊田市・トヨタ自動車と一体的に取り組んでいく体制ができた。
- 総括2：現在も続いている全世界の課題となった新型コロナウイルスへの対応として、機動的に年度の研究計画を見直した。豊田市はじめ全国を対象とした調査を実施し、各種比較研究を基に、豊田市長等へ情報提供を行うことができた。
- 総括3：コロナ禍においても平時と変わらない受託件数を達成しただけでなく、受託金額合計額についても、年度当初予算を上回る結果となり、財政的に研究所の運営に貢献することができた。
- 総括4：感染症対策として、緊急事態宣言やまん延防止措置等の発動に併せて要請された7割のリモートワークを実践するだけでなく、その期間外についても、20～50%の在宅勤務等の実施に取り組んだ。また、そのような状況下でも、受託研究遂行への影響を最小限に留め、計画通り完成させることができた。
- 総括5：報告会や「まちべん」等外部への情報発信について、ストップすることなく、最適な方式を模索しながら、オンサイトとオンラインとの併用により継続的に実施することができた。公益法人としての事業の透明性を図ることができたと同時に、研究成果等を絶えず発信することにより、社会への還元ができたと評価する。
- 総括6：最もコロナ禍の影響を受けたのは出張・イベント等が伴う各種活動である。その結果、最も低調になったのは国際会議での論文発表及び外部での講演活動である。今後、国際ジャーナルへの投稿へシフトしたりするなど、オンラインで参加する国際会議に積極的に参加することとなるが、そのためには、今まで以上に研究員の語学力を強化する必要がある。
- 総括7：リモートワークのあり方を模索しながらの一年であったため、多かれ少なかれ研究の進捗に一定の影響が及んでいる。ウィズコロナ・ポストコロナを前提とした勤務形態のあり方についても、今後検討する必要があると考えている。

新中期ビジョンの3年目として、「暮らしを支える交通」と「都市空間を創出する交通」の二つの方向性において、「交通の安全・安心」という当面の重点課題に対応したと評価できる。

昨年度の課題となっていた外部への情報発信について、ホームページでタイムリーに情報を提供するようにした。また、コロナ禍において、オンサイトと併せてオンラインによる情報発信も行い、ウィズコロナ・ポストコロナに向け、一定の効果が見えてきたと評価する。

同時に、臨機応変に研究計画を見直すことにより、ウィズコロナ・ポストコロナを意識した調査研究ができ、豊田市へ情報提供することができた。

しかし、リモートワークの要請等に応じたマネジメントの在り方等様々な側面において短期的に対策をしてきたものの、ウィズコロナ・ポストコロナを念頭においた更なる改善が求められており、よりよい形を検討し続けていく。